

令和6年度 第3回 「宇都宮市子ども・子育て会議」 議事録

1. 日 時 令和6年8月27日（火） 午前10時00分～午前11時30分
2. 場 所 宇都宮市役所14階 14大会議室
3. 議 事
 - ・ 第2次「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」（後期計画）の骨子案について
 - ・ 第3期「宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」の骨子案について
 - ・ 「宇都宮市保育の実施選考基準」等の見直しについて
4. 出席者（委員：18名，事務局：28名，計：46名）
 - 【委 員】
菊地香織委員，梅村英美子委員，青木克介委員，高橋利幸委員，海野仁昭委員，
宮前俊哉委員，永田文子委員，松本清美委員，鈴木拓朗委員，塩沢美奈子委員，
齋藤弘明委員，飯沼貞臣委員，関口浩委員，釜井彰一委員，中野謙作委員，
河田隆委員，成島隆裕委員，北條正典委員
 - 【事務局】
〔子ども部〕 高野部長，大出次長，富山副参事
〔子ども政策課〕 西山課長，戸井田主幹，江原室長，近藤課長補佐
安野係長，日野総括，大塚主任主事，廣村主事
〔子ども支援課〕 大嶋課長，大牧主幹，関室長，西田所長
〔保育課〕 伊藤課長，鈴木課長補佐，高桑課長補佐
安納副主幹，熊田係長，馬場係長，渡邊係長
島崎総括，小屋松主任主事
〔子ども発達センター〕 塩田所長，原田副所長，芝野総括
〔生涯学習課〕 塚田課長
5. 公開・非公開の別 公開
6. 記者・傍聴者数 1名

発言者	内 容
	<p>1 開会 会議の公開について決定</p> <p>2 議事 (1) 第2次「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」(後期計画)の骨子案について</p>
事務局	(事務局説明)
会長	質問・意見等はあるか。
中野委員	<p>資料2 2ページの「後期計画における目標指標(案)」の「自分の将来に夢や希望が持てている」、「周りの大人は自分を見守り、支えられている」、「自分の意見や思いを周りの大人に伝えられている」と思う子どもの割合について、現状値から5ポイント上げた数値を目標値にしていることは分かるが、「自分の意見や思いを周りの大人に伝えられている」の目標値が75%と他の2つの指標と比べて、5ポイント低く設定している根拠は何か。</p>
事務局	<p>資料2 3ページをご覧いただきたい。目標の設定については、こども大綱の目標値を参考にしている。</p> <p>「自分の意見や思いを周りの大人に伝えられている」については、資料2 3ページ No. 8 『「こども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思うこども・若者の割合』の目標値が70%となっており、本市の現状値が69.2%と、国の数値をおおむね満たしているため、他の数値を踏まえ、75%と設定している。</p>
会長	<p>どのくらいの意見が集まっていて、その中の子どもたちの属性はどうなっているのか、こういった形式で意見を聴取したのかなど、ある程度明確にして、分かりやすく提示する必要がある。</p> <p>子どもたちの意見は、政策に大きな影響を与えるため、子どもたちの本音を聞く、意見を吸い上げるために、意見を聞きやすい環境を作ってほしいと思う。</p>
永田委員	<p>まず、1点目に、0歳から5歳の子どもや障がいのある子どもに対する意見聴取について、現状と今後の対応を教えてください。0歳から5歳の子どもや障がいのある子どもへの意見聴取は難しいと思うが、取りこぼしがないよう、意見を吸い上げて行って欲しい。</p>

事務局	<p>次に、2点目としては、全ての事業に対して横串を通していただきたい。利用者側からすると、事業同士が繋がりが合っていないことで、「切れ目」を感じてしまう。子どもを中心としたコミュニティや支援・事業の横串を通したものにすると、仕組みづくりをお願いしたい。</p> <p>最後に、3点目としては、資料28ページの【基本目標Ⅲ】地域・企業の「仕事と生活が調和した社会づくり」について、各企業や地域全体に対して、どのように求めていくのか、具体的なイメージを伺いたい。</p> <p>1点目の最初の意見聴取については、子どもたちへの直接の意見聴取を初めて実施したところであり、全ての子どもへの意見聴取が困難であることから、対象を絞って実施したところである。障がい児については、市内7校全ての特別支援学校の全校生徒に対して、また、医療的ケア児については、NPO法人にご協力をいただき、保護者の代理回答を認めただうえで、アンケート形式で調査を行った。0歳から5歳児については、今回調査を行っていないため、今年度の結果や委員のご意見を踏まえながら、来年度以降の対象について検討していく。</p> <p>また、補足になるが、今年度のイノベーションmiyaユース会議事業として行った意見聴取については、0歳から5歳児の意見は含まれていないが、昨年度、この計画の改定にあたって、子どもたちと保護者を対象に実態調査を行った。その調査では、0歳から5歳児が直接の対象ではないが、未就学児の保護者を対象に調査をさせていただいたところである。</p> <p>2点目の事業の横串を通すことについて、確認であるが、利用者の方々から見ると、子ども分野と教育分野などの分野の狭間で、事業が連続していないように感じるというご意見でよろしいか。</p>
永田委員	<p>子どもにとって、必要な場所や支援などは異なるため、子どもが繋がり得る全ての事業について、横串を通して欲しい、ということである。</p>
事務局	<p>資料19ページをご覧いただきたい。子ども分野全体に係る課題である「少子化対策」、「子どもの貧困対策」、「相談支援体制」の3つについては、全体にかかるものとして、横串を通して整理していきたい。本計画に直接の記載がない障がい児・者や教育の分野については、各分野の計画の中で詳細を整理しているが、関連する分野の計画間で整合を図るなど連携していく。</p> <p>3点目の仕事と生活が調和した社会づくりへの行政の関わり方について、国においては、事業者に対して、従業員数に応じて、従業員が子育てしやすい環境の整備などをまとめた行動計画の策定を義務化し、その推進が求められている。</p> <p>このような中、本市においては、例えば、企業に対して、不妊治療中の方</p>

中野 委員	<p>が会社を休みやすくする環境を構築していけるような指導・呼びかけをする等の取組ができないか、検討しているところである。</p> <p>参考資料の裏面、「第5章 計画の展開」の「構成施策」では、「子どもの権利に関する意識醸成」、「子どもが意見を表明する機会の確保」、「子どもの学びの支援や教育の機会均等などの推進」は、学校との直接的なかわり強いものになっているが、社会の中では、「子どもの権利」の重要度については、まだまだ認識が足りていない。</p> <p>学校に対して、いかに「子どもの権利」が重要なのかを伝えていくことが大事になってくる。子どもの意見表明は、学校以外で周知したとしても、学校の中で意見を表明することが大事であることを伝えていかないと、子どもたちは意見を言うこと自体が良いことだと思わず、意見を言うことで、先生に怒られると思っている子どももいる。そういった現実を把握した上で、これからの基本事業や施策に生かしていただきたい。</p> <p>また、「子どもの学びの支援や教育の機会均等などの推進」は、大変必要なことで、例えば、不登校の問題は、教育分野の問題と思われがちだが、実際に、子どもたちに接してみると、貧困や虐待、ヤングケアラーなど、子ども・子育て分野でしか解決できないような子どもたちが一定数いる。そのため、学校の中だけでは解決できないものだとすることを把握することで、基本事業の中に、学校との連携、つまりは教育委員会との連携を組み込んでいくことを検討していただきたい。</p>
各委員	(質問・意見等なし)
会長	本議題について、了承いただけるか。
各委員	了承。
事務局	<p>(2) 第3期「宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」の骨子案について</p> <p>(事務局説明)</p>
会長	質問・意見等はあるか。
永田 委員	<p>「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」と同様に、事業同士の横串を通すことを考えていただきたい。これまでの結果を踏まえて、大体の事業については、現行を維持していくことを考えていると思うが、実際の利用者数だけで判断するのではなく、困り感の強い人ほど、自ら必要な支援を受けられる</p>

事務局	<p>場所に出向くのが難しいというのが現実である。利用者側の視線や立場などを忘れずに、計画に組み込みながら、進めて欲しい。</p> <p>現在、利用している方もそうだが、事情があって現在は利用できていないが、将来的には利用したいと考えている方に対しても、公平に事業を利用しただけの機会を確保していくことは、大変重要と認識している。</p> <p>今後、関連施策の展開の中で、周知方法や活用促進策などについても整理していくので、その中で、市民の方々に広く活用してもらえそうな推進体制を検討していければと考えている。</p>
鈴木委員	<p>まず、1点目、誰でも通園制度の対象について、なぜ幼稚園が含まれていないのか、確認したい。</p> <p>次に、2点目は、資料1 1ページの「利用ニーズ」について、ニーズが減少していくことが見込まれるのは、少子化により、子どもの数が減少しているからだと思うが、社会全体で見たときに、愛着形成や長時間保育が社会問題になっている。子どもが減っていて、長時間保育を行っている保育所や認定こども園等に子どもが集中することが「利用ニーズ」とイコールになるとは限らない。短時間でも預けられる場所についても単純な数字ではなく、ニーズと見込まれることを認識した上で、取組について、俯瞰で見ていただきたい。</p> <p>3点目は、資料1 2ページの「送迎保育の活用」について、各園、保育・教育施設を含めて、現在、送迎バスの運営・運行がかなり厳しくなっている。少子化や運転手の高齢化、昨今のバスに対する安全性、バスの維持など、送迎が難しくなっている。送迎保育の活用を進めるにあたり、子どもを1時間以上車に乗せることは、安全面、教育・成長の面から考えても適切ではないため、そういった点に配慮した上で、送迎を支える仕組みや施策が必要であれば、ともに対応していくということになると思う。</p>
事務局	<p>1点目の「こども誰でも通園制度」については、委員ご指摘のとおり、保育所・認定こども園に限らず、幼稚園や小規模保育施設など幅広い施設が対象となっているが、記載のスペースの関係で全ての施設を記載できなかった。今後は、誤解のないような、記載にしていきたい。</p> <p>2点目について、現状利用している数値からの推計だけでなく、昨年度実施したニーズ調査より潜在的なニーズや保護者の就労状況も勘案して設計した。</p> <p>3点目の送迎保育、送迎バスについては、昨年度、安全装置の設置の義務化など基準が厳しくなったことから、国の補助制度を活用した設置促進を行ったところであり、今後も、国の動向などを踏まえながら、必要な支援を</p>

	<p>していきたいと考えている。</p>
会長	<p>時代の変化に追いつけていけない状況になっていると感じているところだが、少子化が進行していきななかで、今後は幼稚園・保育園，認定こども園などのブロックは無くなっていくと思うし，時代のニーズに合わせてそのような枠を外して考えていかないといけないと思う。</p>
各委員	<p>(質問・意見等なし)</p>
会長	<p>本議題について，了承いただけるか。</p>
各委員	<p>了承。</p>
	<p>(3) 「宇都宮市保育の実施選考基準」等の見直しについて</p>
事務局	<p>(事務局説明)</p>
会長	<p>質問・意見等はあるか。</p>
宮前委員	<p>地域型保育事業の卒園児を加点するということについて，この理由は，あくまでも地域型保育事業の入所率を上げるためにやることで，選考基準や地域型保育事業に問題があったということではないということの良いか。</p>
事務局	<p>地域型保育事業については，保護者から，卒園後はどうなるのか不安であるとの相談が多くある。基本的には各施設で設定している連携施設に進んでもらうことになるが，連携施設以外の施設を希望する方は，利用調整を行うことになる。このような，連携施設以外の施設を希望する際の利用調整に対しての不安を解消するために，今回，加点を強化しようとするものである。</p>
宮前委員	<p>不安を解消するためには加点することが最良の方法であるという認識で良いか。</p>
事務局	<p>加点の強化により，すべて解決するものとは考えてはいないが，地域型保育事業の入所率が他の施設と比べて低い中，保護者の方の選択肢の幅を広げることにつなげていこうという目的である。</p>
各委員	<p>(質問・意見等なし)</p>

会長	本議題について、了承いただけるか。
各委員	了承。
	3 その他
会長	質問・意見等はあるか。
成島 委員	国が行っているこどもデータ連携の取組の推進について、各機関を連携させる実証実験が進んでいると伺っているが、0歳～5歳児や障害児など、声を上げにくい子どもの声を吸いあげて、配慮していく取組は現行計画に反映されているか伺いたい。
事務局	「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」については、資料の19ページに記載されているように、スーパースマートシティやNCCのベースの上に子どもの社会を作っていくという考えであり、その中において、DXやデータ連携を活用しながら進めていきたいと考えている。
海野 委員	<p>毎日朝ごはんを食べている児童、生徒の割合について、実測値を見てみると、H30とR5年を比べて、小、中学生ともに下がっているが、実質どれくらいあるのかを確認していただきたい。</p> <p>また、ある東北の4万人のまちの事例では、速報値によると、5%の生徒が朝ごはんを食べていないという実態がある。5%ということになると120人前後の生徒が食べていないということになる。食べるか・食べないかの理由は経済的なものなのか、様々な生活パターンによるものなのか、定かではないが、最近では、長期休みの間にご飯が食べられず、給食が命をつなぐ唯一の食事になっている子どもがいるとの報道もあった。仮に、宇都宮市で5%と考えると相当数になると思う。さらに、ある東北の町の事例では、老人施設の福祉会が朝ごはんを食べられない子どもたちに対して、登校前に朝ごはんを用意している。先進的な取り組みのため、全国に広がってほしいと思う。</p> <p>様々な理由で朝ごはんを食べられない子どもがいることを考えると、計画の基本事業の中の食育の推進にも関係してくることだと思う。しかし、実施するにあたっては、実施主体はどこなのか、NPOあるいは学校なのか、市なのか、社会福祉施設が補助をもらいながら行うのかなど、難しい問題であると思う。5%の数字は重たい数字だと思うため、実数を良く調べた上で、宇都宮の子ども・子育て政策を考えていくことが重要だと思う。</p>

事務局	子ども達の成長にとって食事は大変重要だと認識しているため、現状、市で把握している数値を踏まえて、どのような事業を行っていくのかを検討していきたい。
会長	(質問・意見等なし)
各委員	4 閉会
事務局	<p>以上で、第3回宇都宮市子ども・子育て会議を閉会する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>